

Title	大阪外国語大学学報 23 編集後記
Author(s)	
Citation	大阪外国語大学学報. 23
Issue Date	1971-01-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80390
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編 集 後 記

学報の編集方法を23号から改めることになった。

昨年来の大学改革論議の中で、学報のあり方について、学内にもいろいろな意見があり、図書委員会でも討議がなされてきて、特集形式をとること、発行のしかたについても、月刊・隔月刊・季刊などの意見がでた。

本年（1970年）4月から、新しい図書委員会が発足し、学報を充実・発展させるためにアンケートをとるなどして学内の意見を求めた。

この結果、年4冊（季刊）を目ざして、本年度はとりあえず3冊出すことで出発することとなり、教授会（8月）でも承認されて、学報のための費用も昨年度の2倍（200万円）を配当されることとなった。

こうして、本年度は図書委員会で検討の結果、①言語編（23号）、②文学編（24号）、③文化編（25号）の3冊を編集・発刊することとした。

本学教官の研究分野は多岐にわたっており、アンケート調査の結果にもとづいて、主題別編集にすれば、細分化されすぎてどうしても全体を包括することができなくなる。しかし、調査の結果をみると、実際上は、語学、文学関係の論文が多数を占めているので、本年度はこの2分野をそれぞれ独立した1冊とし、ついで多数を占める社会科学関係、およびその他の分野、をあわせて文化編とし、1冊にまとめることとした。

このほか、1970年度における本学教官の研究業績一覧は、25号の巻末に掲載する予定である。

学報の大きさ、型などについても、改めるべきだとする意見が、調査の結果ではほぼ50%を占めるが、なお過半数を超えていない。型を改めることは保存上も不便であり、慎重を期して、従来の型を踏襲することとした。

本年度の学報について改めた点は以上のほか、提出論文の制限分量をふやして、400字詰、50枚以内（従来40枚以内）とした点である。

なお改善すべき点多々あると考えられるので、創造的な意見をお寄せくださるようお願いする。
(1970. 11. 相浦記)